

グローバル化時代の 研究開発を考える

Research and Development in the Age of Globalization

取締役 常務執行役員
R&D本部長
神門孝司

Koji
Kamikado



平素は『塗料の研究』をご愛読いただき、また貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。本誌は弊社の研究活動の成果である新技術、新製品を皆様にお伝えするために発行させていただいております。同時に、塗料に関する様々な情報を提供し、お客様とのコミュニケーションの一助となることを願っております。皆様からの貴重なご意見、ご要望を心からお待ちしております。

塗料を取り巻く環境はかつてないスピードで進むグローバル化に直面しております。国内のみを考えた事業形態は終わり、時流は世界規模での競争となっております。

近年、塗料業界においても世界的規模での企業連携・再編がおこっており、企業の存続をかけた競争が現実のものとなっております。

こうした過酷な国際競争の中で、この大波に呑み込まれない施策、言い換えれば継続的に発展、さらには拡大していく方法を求めるとすれば、数多くのユーザーにとって価値ある企業であり、世界的に存在感のある会社を目指していくことと考えます。弊社の存在意義を高める手段の最も重要なキーワードとして研究・開発が挙げられ、その成果として急速に変化する市場、ユーザーニーズに対応した新技術・新製品をタイムリーに提供していくことが必要と考えています。

さて、グローバル化の進む製造業で、研究開発を考えると、重要な要素のひとつとして、研究開発スピードの向上があります。先に述べたように市場変化のスピードアップ、製品ライフサイクルの短期間化が加速しており、この変化に対応できる開発スピードが必須となっているわけです。研究開発のスピードアップや効率化手法に関しては色々研究され様々な手法が提案されていますが、それだけでスピードアップを図ることは難しいことです。必要とされる時期に必要な製品を市場投入していくためには、研究開発に関わる人たちが常に「グローバルな変化を先読みし、価値を創造できる思考状態であ

ること」「物事の背景にある動きを見極めた上での物作りができること」が必要であり、現在、研究開発技術者の意識改革を行い、徐々に成果に結びついてきております。

研究開発におけるもうひとつの重要な要素は、開発しなければならない新規技術・新製品の目標レベルがあります。従来のように、単に塗料及び塗膜としての機能目標だけではなく、その製品が使用される地域、気候、コスト、デリバリー、環境対応をも含めた総合的な目標に立ち向かっていかなければなりません。ガラパゴス的な高機能製品も単位技術の向上として、時には必要と考えていますが、漠然とした目標で開発された製品は完成後の市場競争力は十分ではありません。世界的視野に立ち、各地域のユーザーの要求をよく精査することにより品質目標設定を行い、スピード感を持って進めていくことがグローバル化時代の研究開発の有るべき姿と考え行動しております。

弊社は研究開発を担う部門として5研究所と分析センターを有しておりますが、昨今のグローバル化に対応できる研究開発体制として各研究所及び分析センターの連携・協力体制を強化し、研究開発スピードのアップと効率化を図れる体制を整え、海外拠点からの情報もシームレスに研究開発に反映できるように変化してきており、グローバル化時代の研究開発体制が整ってきていると考えています。

最後に研究開発は製造業にとって明日を担うものであり、この研究開発の基礎となるのは幅広い基礎知識の上立った、技術力及び情報の結集であることを認識し、自前技術にとらわれることなく、幅広く技術を探求し、スピーディーな研究開発を技術者のベクトル方向にあわせ、努力してゆく所存でございます。

今後とも皆様のより一層のご支援、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。